

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600908		
法人名	株式会社 オフィス21		
事業所名	グループホームはなえみ		
所在地	帯広市東6条南13丁目1番地		
自己評価作成日	平成26年2月6日	評価結果市町村受理日	平成26年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平屋建ての建物で、2ユニットを運営しており、各ユニットは玄関横の渡り廊下でつながっています。付近には、小・中学校や食品スーパー、ドラッグストア、クリーニング店、美容室などがあり、利用者の方が買物や髪セットに出かけたりします。町内会に入会しており、町内会行事に参加したり、中学校の職業体験学習の受け入れたりと、地域の方との交流もあります。月に1度の施設行事は、交流をかねてユニット合同で行ったり、毎週水曜日には趣味の会として、利用者の方が喜んで頂ける事を常に考慮しながら、職員が企画し行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0174600908-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0174600908-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成26年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、多数の介護事業所を有する法人が、利用者や家族が「咲いた花のような華やかな笑顔で暮らせる支援」を理念に掲げ、開設して8年が経過しています。地域交流としては近くの中学校から職業体験で生徒の来訪を受けています。また、体育祭に向けての練習をホームの窓から見学したり、体育祭当日はテントの中に席を設けていただき利用者が応援しています。毎週水曜日に趣味の会(風船バレー、ネイルの会、食事作り、ボーリング大会等)を開催し、利用者は持てる力を発揮しています。医療連携体制加算は取っていませんが、協力医療機関の支援の下、ホームを終の棲家として暮らし続けられる環境にあり、利用者や家族の安心に繋がっています。利用者や家族の繋がりの機会となるよう、基本的に利用料をホームに持参していただいています。職員は、利用者が日々気持ち良く過ごせるよう心配りに努めている「グループホーム はなえみ」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者、ご家族が共に笑顔で居心地の良い場所となるように心がけています。	地域密着型サービスの意義と役割を理解したホーム理念を開設時に策定しています。職員は機会を捉え、理念がサービスに反映しているかの確認を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、町内会行事に参加したり、近所の中学校の行事を見に行ったり、美容室や買い物など、積極的に参加しています。	地域との関係性を重視し、近くの商店での買い物や中学校の職業体験受け入れ、体育祭の見学等で地域住民との触れ合いを楽しみにしています。町内会行事(祭り、清掃活動)への参加やボランティアとの交流もあり、ホームの理解に繋げています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練などに地域の方に参加していただいたり、町内会の行事には利用者と一緒に参加し、どのような方が施設を利用しているのか理解していただく機会を作っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でいただいた意見は、速やかに法人の代表を含め検討しています。運営推進会議の内容は職員会議にて全職員に報告しています。	会議は、住民代表2名、家族、地域包括支援センター職員をメンバーに定期的に開催され、ホームの活動状況や行政の通達資料等の情報を報告しています。その後に出されたメンバーからの意見や情報をホームの質の向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な場合は、その都度連絡を取り合っています。地域の方からの相談を市に報告したりもしています。	行政とは、各種報告や相談事で関わりを密にしています。市主催の研修会に参加し、情報収集と共にサービスの質の向上を図っています。今期は、事故報告はありません。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、日常的に私たちのケアが身体拘束とならないか、定期的に確認しています。施錠については、利用者の方の状況により、解放できる時間がないか検討し、実践しています。	身体拘束廃止委員会を設け、これまでに1回開催しています。マニュアルに沿って、ケアの在り方を検討しています。不意の外出が見られるため、全家族の了解を得て各ユニットや玄関は施錠をしています。	施錠は開設以来の課題ですが、時間帯によっては解錠の時期もありましたので、代表者、職員及び家族と協議の上、禁止の対象となる具体例11項目とその弊害について、正しい理解への取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、それを勉強会として職員が学ぶ機会を設けています。日常の介護が虐待となっていないか振り返りながら業務にあたっています。施設長・主任は職員が利用者との間でストレスとなっていることがないか声をかけ、早期の把握につとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議にて地域包括支援センターの社会福祉士の方に制度の説明をしていただき、その資料を職員会議で説明しています。今後も定期的に勉強会にとりいれ、必要な方には、制度の利用を勧めていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明には、一つ一つ時間をかけて行い、その都度質問に答え、ご家族の要望をお聞きし、納得いただいているから、署名・捺印をしてもらっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設にいらした時に意見をきかせていただいたり、苦情申し立て箱を設置しいつでも意見を言いやすい環境作りに努めています。意見をいただいた時は、法人の代表を含め話し合い、速やかに対応できるようにしています。いただいた意見は、運営推進会議や職員会議にて報告しています。	利用者の日常生活振りは、毎月発行の「はなえみだより」や来訪時、電話、手紙等で家族に伝えています。利用者や家族からの意見は少ないですが、表出された課題は具体策を検討し、過程は介護記録に残しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の職員会議、年1回のOJTチェック評価の面談等を通じて意見を聞くように努めています。職員意見で実践出来る事は速やかに業務に反映させています。	代表者や管理者は職員が話しやすい雰囲気作りに努め、日常業務はもとより、ミーティング時や職員会議、個人面談等で職員の意見を受け止めています。行事やはなえみだより等は、担当職員を中心に全職員が携わっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任は常に職員の動向等を代表者に報告し、職員の能力や職場環境について話し合い、職員一人一人に合わせた仕事配分や条件をその都度見直ししています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTチェック評価を導入し、職員が気づく場面を作り、面談しながら職員が求めている事を把握し、職員一人一人の能力に合わせた研修に参加できるように調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近所のグループホームと災害時の協力支援の契約を結んでいます。同じ町内会なので、町内会の行事には、よく顔を合わせます。日常的に交流できる機会を増やしていけるように少しずつ取り組んでいきたいと思っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し、本人が困っている事や要望をお聞きし、早期に不安が解消できるように、初回のケアプランに反映させています。職員は入居前の状況をしっかりと把握し、その方らしく過ごせるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から受け入れまでを施設長と主任が一貫して関わり、ご家族が安心して、困っていることや要望が言いやすくなる関係作りにつとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人の状況を詳しくお聞きし、求めている事を見極め、必要であれば他のサービスの提案をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりが出来る事、役割的な事を見つけ一緒に取り組んだり、行ってもらっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を報告し、ご家族の思いや願を汲み取り、ご家族と同じ目線で支えられるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会時には、ゆっくりとお部屋で過ごせるように配慮しています。電話の取次ぎや手紙の代読もしています。	来訪する家族は、他の利用者にも声掛けをしています。友人等からの手紙や電話の取り次ぎ、来訪時には寛げる環境作りに努めています。馴染みの喫茶店やラーメン店等にも職員は同行しており、利用者の社会的繋がりを大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等を通じて交流できるようにしています。個々の気持ちを大切にしながら、日常の様子で気の合わない人同士の配慮に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合は、対応に応じる体制はできています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人の思いや意向をお聞きしています。日常の会話等からくみ取れる事等を記録に残し、対応するように努めています。	職員は利用者や家族から傾聴した生活歴を共有し、さらに日々の関わりから得た情報を蓄積しています。様々なケアを試みながら、利用者の望む暮らしの支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談でお聞きしたり、面会の時にご家族にお聞きしたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日常の細かな変化を記録し、職員全員が把握できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員にアセスメントをとってもらったり、プランのモニタリングは職員全員で行っています。本人にとってより良いものになるように、職員の意見は反映させています。介護計画と記録が連動するように計画には番号を振り、記録に残すようにしています。	介護計画は、利用者や家族との関わりの中から得た生活への意向を基に、担当職員の情報や医療関係者の意見を参考に職員間で協議し作成しています。計画書は介護記録に添付しています。	介護記録に設定しているケアチェック欄の記入が十分ではありませんので、意識しての取り組みにより、計画の確認が見直し時に活かされることが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書を個人記録の表紙につけておき、いつでも確認できるようにしています。細かな事も記録にのこし、職員間で情報共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様子の変化や要望に対し、その時必要な支援が出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園へ行ったり、散歩をしたり、美容室や買い物に行ったりと、施設内だけではなく、地域にある資源が利用できるように、努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診するときは、日常の様子や病状の変化等を手紙に書き、届けてもらっています。ご家族同行をお願いしていますが、いけない時は施設の職員が付き添う事があります。医師からの指示は、記録に残し職員全員で情報共有しています。	利用者や家族が希望する医療機関への受診は家族が支援していますが、困難時にはホームが対応しています。24時間連絡体制の協力医療機関による月2回の往診や、年2回実施の採血検診も行われるなど、適切な健康管理が図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携の医療機関には、細かに相談でき、速やかに対応してくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常の様子の情報提供をしたり、本人の経過を問い合わせたりしています。必要があれば、病院とご家族の話し合いの場にも出席させていただいたり良い関係づくりを心掛けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来る事を明確にし、契約の段階で説明をしています。重度化した時にご家族と密に話し合いをしながら、ご家族の意向を十分に確認し対応します。提携の医療機関に協力を得ながら対応します。	看取りを経験しています。協力医療機関や家族と情報を共有し、チームケアの取り組みが行われています。協力医が作成したホームの看取り介護についての指針と同意書を整備しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを掲示し常に確認できるようにしている。救命救急の講習会に積極的に参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、避難できる方法を全職員が身につけている。訓練には町内会の方にも参加していただき、協力体制を築いている。	日中想定避難訓練を消防職員の指導の下、町内会3名の参加をいただき実施しています。さらに防災業者の指導を得て、夜間想定自主訓練を職員と利用者で行っています。他のグループホームとの連携も構築され、備蓄品も順次備えています。	当ホームは河川の氾濫地域に位置していますので、非常時に向けて、行政、町内会との協力体制の確立、地域の方を含む連絡網の整備、家族へ避難場所の周知、場面对策（食事、排泄、入浴、外出、停電、断水等）などの検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声の大きさには、特に気を付けるように指導しています。	理念の中に人権の尊重を掲げており、実践に向けたケアサービスに努めています。言葉掛けなど節度ある対応を心掛け、不適切に近い場面が見られた場合は、管理者や主任が指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から思いをくみ取ったり、言いやすい関係に慣れるように努力しています。選択肢の中から自己決定できるように促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのタイミングを見極め、出来るだけ希望に沿う事が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装、ヘアスタイル等本人と相談し、その人らしさを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節感を取り入れ、利用者のリクエストにも対応しています。食事の支度や後片付け等も出来る範囲で協力し合っています。	利用者の好みや食べたい物、旬の物を踏まえて、ユニット毎に献立を作成し、食事作りを一緒に行っています。駐車場でジンギスカンを楽しんだり、外出して回転寿司等を堪能しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表には、摂取量を書き込み、食べた量を把握しています。食事の形態や量等、一人ひとりに合わせて対応しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方については、行えています。自立されている方には、声をかけて行ってもらっています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、介助の必要な方はトイレ誘導しています。トイレでの排泄に努めています。	利用者の意思でトイレへ行っていますが、声掛けや誘導が必要な場合には、排泄チェック表を参考に時間や動作から察知してトイレへ誘導し、失敗の減少に繋がっています。衛生用品の使用は、職員間で検討してから決定しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分の声かけをしています。食事では、ヨーグルト等の乳製品が撮れるように献立に入れています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方の希望に沿って入浴できるように柔軟に対応しています。ゆったりと安心して入浴していただけるように1対1の対応をしています。	毎日入浴出来ませんが、午前と午後に週2回以上の入浴支援を行っています。時間帯や回数は、利用者の意向を受け入れ、入浴剤入りの浴槽で心身にリラックスできる環境で支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	アイスノン、加湿器、湯たんぽ等で心地よく休息できるように工夫しています。室温や物音にも配慮しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイルし、いつでも確認が出来るようにしています。薬の変更や病状の変化は記録し、職員全員がすぐわかるようにしています。服薬時に間違えがないようにチェック項目を作り確認しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳や洗濯物たたみ等の役割があり、楽しみ事として、行事や趣味の会に参加したり、誕生会や散歩等を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は毎日のように日光浴をしたり、外出行事を設けたり、本人の希望で、美容室や買い物行ったりしています。	利用者の意向に沿って、ホーム周辺の散歩や買い物、美容室への送迎支援を行っています。チーズ工場見学や菖蒲園、菊祭り等の花の観賞など外出行事を企画し、利用者全員が外気に触れ五感刺激に繋がっています。家族の参加も得て、ホテルで敬老会を開催しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額でなければ、本人が持っている事がありますが、ほとんどの方が事務所で預かっています。本人が欲しいと思ったものや必要なものは、速やかに購入できるように対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望がある時は、速やかに対応しています。携帯電話を持っている方もいて、使い方がわからない時は、教えたりしています。手紙が届いた時は、代読したり、手紙やはがきを書くお手伝いもしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感があり落ち着いて過ごせる雰囲気作りを心掛けています。季節感を取り入れた飾りつけにも工夫しています。	各ユニットに雛壇が飾られ、華やかな雰囲気になっています。温湿度、採光に配慮された共用空間はゆったりとしており、水分補給のポットが置かれ、壁面には行事や風景の写真展示、台所からは料理の匂いが立ち上り、生活感が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席やソファの位置、居室で一人ひとりにあった居場所づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットやタンスを置いていただいたり、ご家族の写真を壁に張ったり等、家に居るような雰囲気作りをしています。	入口には表札が掲げられ、さらに自分の部屋として認識しやすいように人形や造花を目印として飾っています。居室に置かれている整理タンスや仏壇、テーブル、観葉植物、家族の写真や飾り物などが安らぎのある空間を醸し出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に冷たい水が飲めるようにポットの配置やタオル交換したり、新聞たたみ等、今それぞれが出来る事を通じて自立への工夫を心掛けています。お部屋が解らない方の為に入り口に人形を付けてわかりやすくしたり、困っている時は、さりげなく誘導したりしています。		